

● Introduction

- 川井秀之と言います。昨年の春に名古屋にあるキリスト聖書神学校を卒業しまして、Torrance にある Lighthouse Community Church で一年間のインターンをさせていただいています。本日は、妻の康世と、6月2日に3歳になりました息子の翔真、そして、妻のお腹の中に10月が予定日の女の子がもう一人おりました、4人で参りました。1年間のインターンシップですが、アメリカの生活ももう残り1か月となりました。本当に時間が過ぎるのは早いと思われていますが、アメリカの地で神様からたくさんのお祝福をいただいています。
- その祝福の一つが仁先生と、お会いできたことです。良き交わりの時が与えられ、仁先生がアメリカの地でキリストのため、そして日本人のために仕えておられる尊い働きをお聞きすることができ、感謝でした。またこのようにして今日皆様の前でメッセージさせていただく恵みにもあずかっています。
- お祈りをしてメッセージを始めたいと思います。
- 私は、聖書的カウンセリングを学ぶためにアメリカに来ました。聖書のみを使ったカウンセリングを通して、多くのことを学びましたが、自分が何者かということを理解することができたのは最も大きかったように思います。アメリカに来る前は、私の妻は世界一幸せ者だと思っていました。なぜなら私と結婚したからです。私は、自分が罪人だとは分かっていたのですが、まあある程度良い人間だとも同時に思っていましたし、当時は、妻にも優しく接していたつもりです。しかし、聖書カウンセリングを通して、今まで気付かなかった罪にも気付かされ、逆にこんな罪人と共に歩んでくれる妻がいる私こそ世界一の幸せ者だと思ふようになりました。
- 初めに質問から入りたいと思います。どちらの人と友達になりたいでしょうか？娘さんがいらっしゃる方は、どちらをお嬢さんにしてほしいでしょうか？昔から悪がきで、思春期には落ちこぼれ、最終的にやくざになった人と、小さい頃から教会に毎週行っていて、思春期には部活にも入らず、教会に毎週来ていた。そして優等生で学校を卒業し、大企業に勤めるサラリーマン。
- 私たちは、全能ではないので、人を外側からしか判断することはできません。外側を見て、この人は良い人だ、悪い人だと判断してしまいます。しかし、外側が表しているものとその人が内側に有しているものは、異なる場合が多いでしょう。以前、テレビで見たことですが、働いている人の人相（顔）が最も良い職種とは何でしょうか？というものです。人相は何をやっているかが出てしまうそうですよ。何の職種だと思いますか？牧師？ホテルマンなどのサービス業？違います。詐欺師です。内と外は違うのです。

● Key idea 今日のメッセージを要約して、一つの文で表すと、

- 「聖書を通して、イエスが自分に必要だと理解し、イエスに従う。」となります。イエスが自分に必要であると理解するために、二つのステップがあります。一つ目が、

● Points

1. 私とは何者か？（11節）

- ① 私たちは、何者でしょうか？極端な例ではありましたが、先ほどの2人の例で、どちらに自分は近いと思いますか？今日の聖書箇所、パリサイ人がでてきます。パリサイ人とは律法や律法に付随する当時の伝統をしっかりと守っている人々でした。当時の人々が考える、模範的な人達でした。彼らは聖書を学び、祈り、貧しい人にお金をあげるなど、良い行いをしていたため、聖い人々と考えられていました。先の例で話したように、現在で例えれば、ずっと教会に通い続けている人、優等生、しっかりと社会的に自立している人のことです。しかし、パリサイ人たちは、それらの行いによって、自分自身を正しいとしていました。他人より多く聖書を知っているし、他人より多く祈っている、また罪人とは離れ

て、聖い生活をしていると考えていたので、11節にあるように、「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人と一しょに食事をするのですか。」という質問が出てきたのです。彼らが考えているのは、外見だけです。

- ② しかし、彼らの実情はどうだったのでしょうか？人と比べて自分は大丈夫というところに彼らのアイデンティティーがあったので、神よりも、人に重きを置いてしまっていました。そのため、神に祈っているようで、実は人に祈っているところを見せて、人から聖いと思ってもらおうとしていました。また神の栄光のために本当に貧しい人のことを考えて、お金をあげているようで、自分が人から尊敬されるようにしていました。結局すべて自分のため、自己中心の思いだったのです。振る舞いなどの外側が良くても、内側、心は罪深かったのです。
- ③ 今も昔も変わりません。ずっと教会に通い続けている人、優等生、しっかりと社会的に自立している人が尊敬され、そのような人になるべきだと教育されているので、私たちはいつも外側ばかり、行いばかりに目を留めてしまいます。その人達の内側がどうなっているかには目もくれません。私たちに、そのような価値観が根付いているため、普段の生活において人に見られる部分だけをしっかりと整えることに労し、またそうでない人を見ると、さげすむのです。人を招く時にリビングだけきれいにし、寝室に洗濯物が山になっているというようなことはないでしょうか？そのような状況が生活のあらゆる部分に根付いているのです。私たちは聖書でパリサイ人が、イエス様によって非難されているのを読みながら、今日でも、私たちの目標や理想像は、実はパリサイ人のような人なんです。大きな矛盾があるのです。
- ④ 外側だけ整えて、私は大丈夫、自分で何とかなっていると世の中の常識・価値観ゆえに、考えてしまうんですが、聖書を通して、そのような価値観に真っ向から対立すべきです。それは、イエス様がそのように教えているからです。今回の箇所では、イエス様が、私たちは大丈夫、自分で何とかなっていると知っているパリサイ人を非難しています。私たちとは何者か？その答えは、「私たちは、助けを必要としている者である。」ということです。大人も子供も関係ありません。「人は、何かにまたは誰かに依存していないと、助けを求めないと生きていけない者です。」マルコ 10:15 に「まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。」とあるのは、子どものように純粋な者ではなくて、子どものように頼る者という意味です。子どもは親に依存しないと何もできません。そのように神に依存しないといけないと聖書は語っているのです。

2. イエスとは誰か？(12節)

- ① イエスが自分に必要であると理解するためのもう一つのステップは、イエスとはどのような方か理解することです。マタイ 9:12 でイエス様が、「**医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。**」とおっしゃいました。ここでイエス様はご自分を医者に例えられました。マタイ 4:23-25 にはこう書かれています。「**イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。イエスのうわさはシリア全体に広まった。それで、人々は、さまざまの病気と痛みと苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかん持ちや、中風の者などをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らをお直しになった。こうしてガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。**」イエス様は、足の萎えた人や目が見えない人、ツァラアトの人など、あらゆる病気やけがを治されました。病気やけがを奇跡的なかたちで治した理由は、私たちの目に見える形で、イエス様が最も深刻な罪を治すことができるということを示すためでした。イエス様は私たちの最も深刻な病である罪を治すことのできる唯一の御方です。誰も治せない病を治すことができる最高の名医なわけです。
- ② 私の好きなテレビ番組の一つに NHK のプロフェッショナル仕事の流儀という番組があります。毎回一人のある分野で活躍している方を取り上げて、彼らの仕事に対する向き合い方や、どうしてプロフェッショナルになることができたかということを生活に密着しているドキュメンタリー番組ですね。どんな人でも興味深いのですが、医者を取り上げている回をよく見る機会があります。その医者に診察しても

らおうと、また執刀してもらおうと、日本中から、患者さんが集まってきます。患者さんからしてみれば、お医者さんに見ていていただくために、会いに行かなくてはいけないのです。しかし、この箇所でのイエス様はどうでしょうか？

- ③ 9 節を見て見ましょう。「イエスは、そこを去って道を通りながら、収税所にすわっているマタイという人をご覧になって、「わたしについて来なさい。」と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。」マタイは取税人で、オフィスに座っていました。そこにイエス様が来られてマタイに話しかけられました。先ほどの例えで言うと、お医者さんの方から、患者さんを見つけて会いに行くという場面です。
- ④ 当時の取税人は罪人や遊女と同列に扱われていました。この当時のイスラエルはローマ帝国を宗主国としていて、取税人として働いているユダヤ人は、ローマに納める税金を同胞のユダヤ人から取り立てていました。同胞のユダヤ人にとって取税人は、裏切り者です。ましてやイスラエル人は「自分たちは神に選ばれた特別な民であるというプライドを持っており、異邦人を蔑んでいました。異邦人であるローマ人が神の民を支配するというプライドが許さない状況で、異邦人の手先となって同胞から搾取する取税人は嫌われていたのです。逆に、取税人は、ローマという虎の威を借りて、強気で、必要以上の税金を取って、私腹を肥やしていました。嫌われようが、経済的に豊かになれる職業であったので、その仕事を生業としていました。ある意味でやくざのようなものです。そのような誰も近づきたくない存在のマタイにどうしてイエス様は声をかけたのでしょうか？
- ⑤ これまでイエス様が行っていた奇跡がマタイの耳にも届いていたはずですが。イエス様は何か違う！会ってみたいとも思っていたでしょう。でもマタイは一步を踏み出せず、取税所というオフィスにいたのです。彼の心の内だから推測するしかありませんが、一度やくざのような取税人の道に入ってしまったから、続けるしかない、ここで自分の人生を変えるなんて無理な話だ！というあきらめもあったかもしれません。そのような複雑な気持ちでいたマタイにイエス様の方から会いに来てくれたんです。誰も会いに行きたくないような自分に、気になっていたイエス様が会いに来てくれたんですから彼も驚いたことでしょう。すごく嬉しかったに違いありません。だからすぐに従えたのです。一步踏み出せたのです。イエス様はあなたにも個人的に出会うために、イエス様の方から会いに来てくださっています。それは、クリスチャンであろうとノンクリスチャンであろうと関係ありません。日々、一瞬一瞬、あなたにイエス様が必要だと理解して欲しいからです。
- ⑥ かつて夏に親せきでお墓参りに行ったときの事です。直射日光のせいで、親せきの年配の方が、倒れてたまたま石にぶつかってしまい、頭から血を出して、起き上がれなくなってしまいました。私たちは慌てて、救急車を呼びました。その間にも血が出てくるんですよ。早く救急車来てくれ～！と思っていました。すると遠くから、ピーポーピーポーというサイレンの音が響いてきました。やっと来たーと思ってほっとしたのを覚えています。また大学生の時、一人暮らしをしている時に、夜中の2時ぐらいです。救急車のサイレンで起こされ、どンドン音が大きくなって、しまいには、私のアパートの前で止まったんです。私が思ったのは、こんな夜中に、うるさいな～！です。全く同じサイレンの音です。全く同じサイレンの音なのに、自分が助け求めている時のサイレンの音はほっとする音で、自分が助けを求めている時は、うるさい雑音です。イエスキリストの声も私たちには同じです。私たちが病人だと理解し、助けを求めている時には、医者としてのイエスの声は本当に頼もしい救いの声だと思います。しかし、私たちが病気であるはずなのに、それに気づいていなければ、邪魔しないでくれと言いたくなるような雑音にしか聞こえないでしょう。私たち人間は、罪という病を抱えた病人であり、イエスキリストはその病を治すことのできる唯一の医者であるということを知ることがあります。

3. イエスに従う。(9 節)

- ① イエスに従うとは、様々な意味があると思いますが、この聖書箇所においては、イエスにのみ助けを求めるといふことと言い換えることができます。

- ② 私たちが助けを求めたとしても、気をつけなくてはいけないのは、誰に・何に信頼し、助けを求めるのかということです。やぶ医者や信託しても、結局私たちの病は治るどころか悪化してしまいます。イエス以外に信頼し、助けを求めることを、聖書では偶像礼拝と言っています。
- ③ 偶像というのは、仏壇や、像だけのことを言っているわけではありません。ある物を神以上に信頼することが偶像礼拝です。
- 1) お金：お金をはどうでしょうか？お金は安心を運んでくる、何かあった時に困らないと、神以上に信頼していませんか？
 - 2) 家族：家族はどうでしょうか？結婚を願っている方の中には、結婚さえできれば私は幸せになれると結婚に信頼を置いていないでしょうか？
 - 3) 学歴や教育：学歴や教育はどうでしょうか？神も必要だけど、この世の中で上手くやっていくには、良い大学に行って、良い会社に入ることが大切だよ。と子どもに言い聞かせている場合、それは偶像礼拝を子どもに教えているということになります。
 - 4) 仕事：仕事は私たちに真のアイデンティティーを与えてくれるものだと信じていないでしょうか？神の子というアイデンティティーよりも職場で良い働きをすることで、価値のある人間と認められることの方が大切と信じていないでしょうか？
- ④ 私たちが本当に信頼しなければならないのは、頼らなければならないのは、イエスキリストです。お金も、地位も、家族も、非常に不安定なものです。明日には無くなっているかもしれません。そこに自分の助けを求めるとは、溺れている者が溺れている者に助けを求めているのと同じです。おぼれている者は、陸にいる安心して身を任せられる人に助けを求めべきです。それがイエス様です。イエス様は神の子であって、全世界を創造した方です。被造物ではありません。その方に助けを求めることがいかに確かか、計り知れません。ローマ 9:33 に「彼に信頼する者は、失望させられることが無いと」あるように、キリストに信頼する人生は、偶像に信頼するよりもはるかに素晴らしいのです。イエス様は、あなたの悪いところ、欠点、人に見せたくない部分をすべて知った上で、あなたを個人的に呼んでくださっています。そのイエス様に、今日も明日も明後日も命の日の限り、信頼して歩いていきましょう。